宇医会報

第 52 号
平成 26 年 5 月 15 日

「服飾回顧」

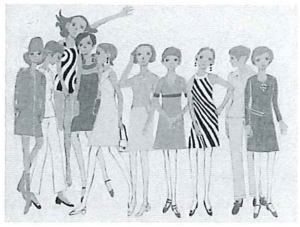
草場　辰哉

邦画「ALWAYS3丁目の夕日 '64」の1場面でしたが（1964年東京オリンピック開催の年を舞台にしている）「みゆき族」映っていましたね。アイビールックの出で立ちでVANジャケットの紙袋を小脇に抱えて、週刊誌「平凡パンチ」 の大橋歩氏による表紙画（今観ても素敵ですよ!）と相まって大流行。

当時、小学校6年生の私も、テレビのチョコレートコマーシャルで流れる「ハードディズナイト（ビートルズ）」 と同じくらいの衝撃度。勿論、婦人画報社創刊の「メンズクラブ」「mc sister」など読みあさり、石津謙介氏、くろすとしゆき氏など、憧れの存在。何と、あの菅原文太氏も初期のメンクラモデルだったのですよ。

その後、50年間、トラディショナルスタイルは私の服飾感性の基本です。さて、ここ1、2年、おじさん雑誌「UOMO」「LEON」 などで、トラッドテイストの復活著しく、ツイード生地、バンプタイプスリッポンなど懐かしのアイテム目白押しです。

マークジェイコブスのルイビトン在任最後のコレクション（2013年）はブラックモノトーン回顧調で、村上隆、草間彌生氏などとコラボした以前のアバンギャルドから一転していました。今、流れはトラッド、ベーシック回顧調！



開業医における実践的な学習法の試み

村上　茂樹

開業医生活も早や18年が過ぎてゆく中で、日々の外来診療と手術に加え、保険請求や労務の運営管理、そして、学術研究や執筆等の合間を縫いながら、より有用かつ実践的な臨床の学習法について模索し、工夫するように努めている。最近試みている新たな実用的な勉強法として、学術集会や講演会の日程とその演題に合わせて勉強のテーマと期間を決めて文献資料を集め、集中して反復した勉強をするように心掛けている。

今回は糖尿病網膜症及び糖尿病黄斑症の診療についての学術講演会が開催される3月中旬に合わせて、2月上旬から糖尿病網膜症・黄斑症をテーマとして、これまで使用してきた成書や教育講座のテキスト等を持参して休日は図書館に出かけ、朝から夕刻まで成書や講演テキストを繰り返し読み込む学習に努めてみた。このような教科書の読み込みについては、ただ漠然と長時間読書するのではなく、50分間集中して5分間机上俯せ休息を繰り返すインターバル法の方がより集中でき、頭脳や眼の疲れも少なく、有用であると考えられた。

糖尿病網膜症・黄斑症については、近年は病期分類も数多くあり、かつ、治療法も一層多彩となり、通常の薬物療法の他に網膜光凝固治療法の進歩や硝子体・結膜嚢への薬物注入治療の開発、さらに、27ゲージからの極小切開による硝子体手術法も開発され進歩を続けている。

このように、糖尿病の眼合併症の治療目標が、過去の「失明の回避」から現在は「視力と生活の質の向上（QOV及びQOL）」を目指す流れとなり、網膜光凝固術や薬物注入療法、そして硝子体手術の早期の手術適応や手術手技、さらに合併症のリスクの回避策などを学ぶことに重点を置いて勉強した。そして、成書やテキストを読んでも解りにくい点は、眼科医会の教育用DVDも購入して過去の講演集から順に再度聴き直して理解を深め、さらにCDにも録音して起床後や就寝前に繰り返し耳からも知識を反復して修得するよう努めてみた。こうして、過去から現在までの糖尿病眼科診療について学んでいく過程で、糖尿病網膜症・黄斑症に対する根幹となる共通した治療の流れがよく解る様になってきた。そして最近の治療法の進歩についても、その根幹の治療の壁となっていた問題点をブレイクスルーした新しい技術の有用性がより理解できるようになった。また、かつての名教授と言われた先生方の講演の内容の素晴らしさのみならず、その話し方や口調も非常に勉強となり、CDを聴きながら一緒に声に出して楽しく知識を修得することが出来た。

また、数多くの著名な著者の考え方を繰り返し読んでいく中で、それらに共通する普遍性のある治療の理論も浮き彫りとなって把握することが出来た。また、同様に昨年11月末にも保険診療の講習セミナーの開催に合わせて2ヶ月前から過去6年間の熊医会報の解説資料と日本眼科医会の保険審査員会議議事録の資料を集め、保険診療についての知識を勉強していく中で、その繰り返し指摘されている重要なポイントがより明確に浮き彫りになり把握できるようになってきた。そして、当院の保険診療で留意すべき事項をノートにまとめ上げて、職員にも周知させ全員で実践するよう努めている次第である。

こうして、当日の講演を拝聴しながら、これまで成書とDVDやCD等の様々な手法で繰り返しインプットして得た知識を、演者の先生への質問や懇親会での追加質問の際にアウトプットしながら質問させて頂くことで、知識のより密な修得と整理、そしてブラッシュアップが出来ることが実感できた。

平素、日々の診療や手術の中で多くの患者さんの病態や病期を瞬時に判断し、治療法の適応と選択を正しく決断していく為に、この様に学会や講演会のテーマに沿って目標と期間を定め、集中して反復学習する方法の有用性を生かしてこれからも有用な勉強を続け、厳しい医療情勢の中でも患者様に笑顔でより充実した医療を実践できる様微力ながら努力を続けて行きたいと考えている。

一世を風靡した"チョロQ"紹介Part①

吉窪　誠司

チョロQの歴史について御紹介致します。

下記の文は私が個人的に開いているサイトの私の記事となります。

チョロQは、1980年12月クリスマス商戦前のテストセールでデビューしました。子どもはもちろん女性からもかわいいと評判。翌年には「チョロチョロ走るキュートなミニカー」“チョロQ”という名前で販売されることとなりました。このテストセールで販売された商品名が豆ダッシュです。正式リリースの12月販売ではマメダッシュと表記されています。

豆ダッシュは全12種類。4車種（エフワン、カウンタック、バン、VWバハ）×3色（黄、白、赤）なかでも白は日焼けしやすいので状態が完全なものを現在入手することはほぼ不可能に近いと言われています。チョロQとして販売されたAセットとの相違は車軸の太さが1.0mmから1.2mmと強度upのため変更されており精密測定器を使わないと判別できません。

1982年つっぱりブームにともない通常のラインとは異なるBシリーズが登場します。これにより今までのシリーズはAシリーズ（A品番）と区別されます。このBシリーズの「はこのりチョロQ」は全4種×3カラー。車種はケンメリ、ローレル、セリカと当時のヤンキー仕様の車となんと婦警さんの乗るセルボまであります。チョロQの面白さはこういった可笑しさを取り入れているのもひとつ。竹やりがコインホルダーとなっています。人気はあったが教育委員会から教育上好ましくないという理由ですぐ絶版となり現在稀少な部類となっています。

この年はほかに、女性をターゲットとしたかわいい模様の「ふぁっしょんチョロQラブラブ」、ロディオのように踊って走行する変形タイヤを履いた「テクノチョロQカーボーイ」が販売されています。

はこのりチョロQも稀少な逸品であるが、当時から稀少と謳われていたのがこのメロディチョロQです。当時の販売価格2380円と比較的高価なこともあり、玩具店に置いてあるのも稀でした。当時のソーラー電池の性能はそれほどよくなかったため鳴らないといって捨てられることも多く現存数も少なく稀少性が高いです。バリエーションは3色。それぞれ異なる音楽が楽しめました。

このチョロQのおもしろエピソード。夜中睡眠していると、幽霊がでてきそうな音が突然鳴りだしたのだ！なにかと思うと、このメロディチョロQが犯人。光に近づけると軽快なメロディなのだが遠ざけるにつれてスローダウン。止まったかと思うと突然鳴り出すこともあったいわくつきのチョロQです。

好評だったチョロQはすぐさま、海外にも輸出され、アメリカ、ヨーロッパ向けに「ペニーレーサー」という名前で発売されました。

ペニーレーサー専用金型では

●スピードフリークス（クレイジーコブラ／ビッグダディ）
●ボンティアック・ファイアーバード
●ドラッグレーサー

の3種がありますが、

●カウンタック（ガルウイング開閉なし）
●VWバハ（フロントウインドウ高さ狭い）
●ハイラックス（フロントライト部が大きい）
●ポルシェ930（フロントシャーシにモールド追加）
●コルベット（フロントバンパーがボデイ成型）

なども細部が違うので所有されている方は違いを楽しんで下さい。

他にペニーレーサーだけのバリエーションとしてグロー・イン・ザ・ダークと呼ばれる蛍光素材を使用した暗闇で光る仕様があります。日本ではQQQバック'83とアメリカンセットで入手できました。ペニーレーサーは今も車種を変えてタカラライセンスのもと海外で販売されています。

また、この年には有名な幻のチョロQがあります。この仕様は後年ブラックエンペラーと呼ばれ人気が高いです。生産ロットも１回だったため現存数も少なく、ブラックエンペラーはCセット～Gセットまで続き、Hセットではゴールドでなくシルバーのウインドウが組まれた仕様が存在します。

Part②へつづく